

7年ぶりに節電要請発令中！「冬に発生する家庭内の課題と窓の関係についての意識調査」を実施！

**節電要請が発令されることを知っていた人は約70%いるにも関わらず
具体的な対策を考えている人はわずか17.3%と判明**

**さらに、節電対策を実施予定と回答した人の内、
半数以上の64%が「暖房」で節電対策を検討しているという結果に！**

専門家は「窓」を換えることで冬の住環境トラブル改善に繋がる、と窓リフォームを推奨

高い断熱性能で夏涼しく冬暖かい“快適な住まい”を実現する「APW」樹脂窓シリーズを提供するYKK AP株式会社（本社：東京都千代田区、社長：堀 秀充）は、本格的な冬を前に20代～60代の男女1,105名に「冬に発生する家庭内の課題と窓の関係についての意識調査」を実施しました。ウクライナ危機などを背景に火力発電用の燃料である液化天然ガス（LNG）の海外からの安定調達にも懸念が残っていることなどを理由に12月1日から2015年度以来7年ぶりに夏に続いて冬季においても全国規模で節電要請が発令される中、本調査は“家の中での冬の困りごと・お悩み”と“窓との関係の認知度”の把握を目的に行いました。

さらに調査結果を受けて、空調・通風・給湯・自然光利用など幅広いテーマを研究している東京大学大学院 工学系研究科 建築学専攻 准教授 前 真之（まえ まさゆき）先生に建物の断熱の重要性和樹脂窓の効果についてコメントをいただきました。

■「冬に発生する家庭内の課題と窓の関係についての意識調査」概要

調査期間：2022年11月16日(水)～11月21日(月)

調査方法：インターネット調査（YKK AP 調べ）

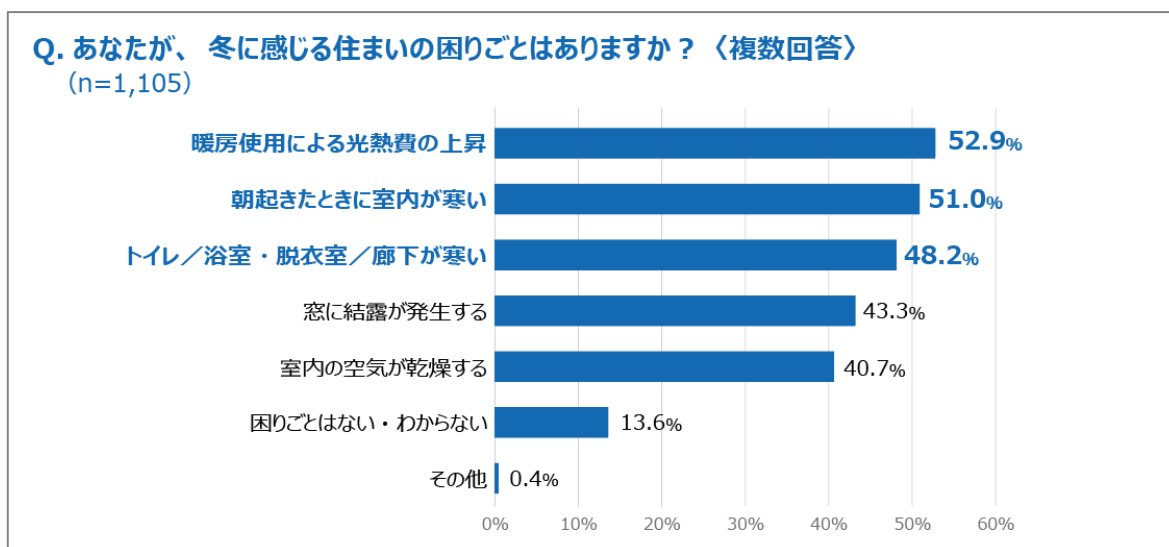
調査対象：全国の20代～60代の男女1,105名

※調査表・グラフの数字は、表章単位未満を四捨五入しているため、内訳を足し上げても必ずしも合計とは一致しない場合があります。

【調査結果一覧】

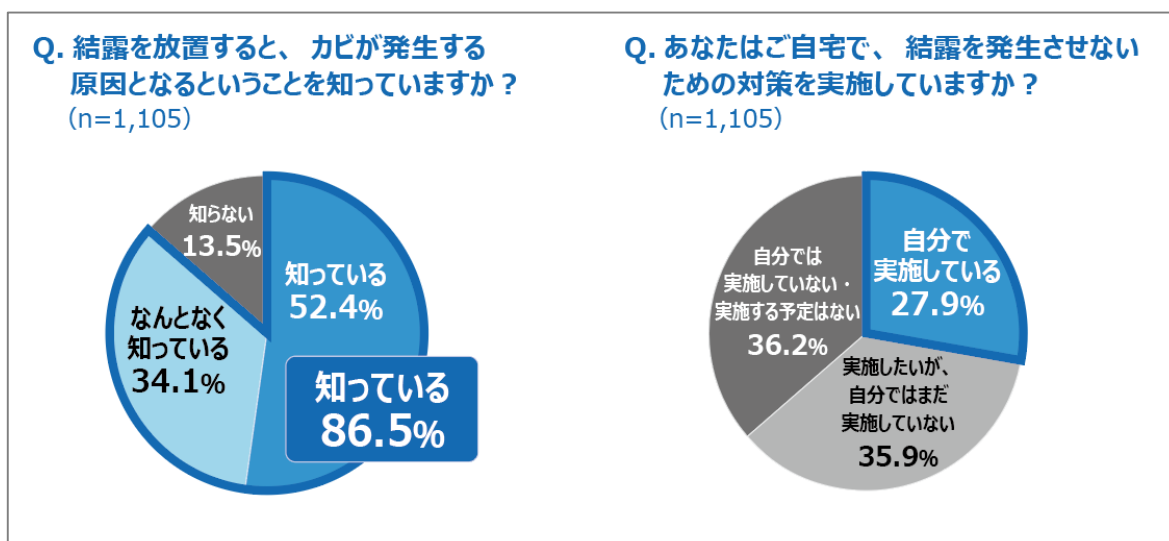
- ① 冬に感じる住まいの困りごと、第1位は「暖房使用による電気代の上昇」
続いて、「朝起きたときに室内が寒い」「トイレ／浴室・脱衣室／廊下が寒い」という結果に
- ② 結露を放置するとカビが発生する原因となることを知っている人は85%以上もいるのに対し、
自宅で結露を発生させないための対策を実施している人はわずか27.9%
- ③ 結露対策を実施していない人の理由第1位は「対策を行うのが面倒」だから、
「どんな対策があるのかよくわからない」という理由が第2位に
- ④ 節電要請が発令されることを知っていた人は約70%いるにも関わらず
具体的な対策を予定している人はわずか17.3%
- ⑤ 具体的な節電対策を実施予定、もしくは具体策は考えていないが節電対策を実施予定と答えた人のうち
半数以上の64.4%が「暖房」で対策をしようとしている

調査結果①：冬に感じる住まいの困りごと、第1位は「暖房使用による電気代の上昇」
 続いて、「朝起きたときに室内が寒い」「トイレ／浴室・脱衣室／廊下が寒い」という結果に



冬の住まいで困っていること第1位は「暖房使用による電気代の上昇」、第2位に、「朝起きたときに室内が寒い」こと、第3位に「トイレ／浴室・脱衣室／廊下が寒い」でした。総務省が発表している消費者物価指数では2022年10月の電気代は昨年の前年同月比よりも20.9%も増加している中、表裏一体である光熱費と部屋の寒さに関して高い関心もたれているのが分かります。

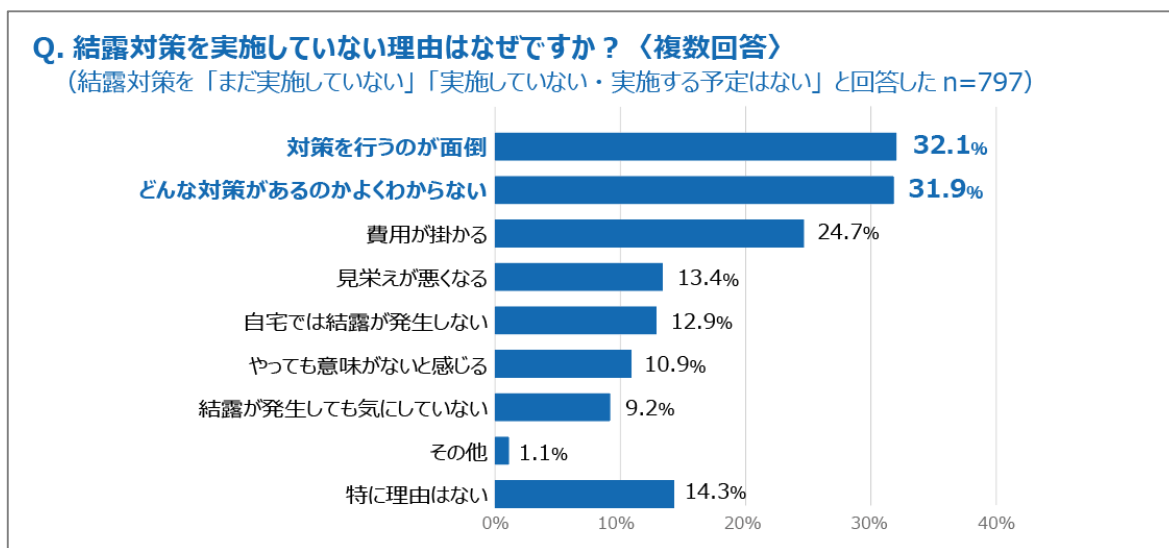
調査結果②：結露を放置するとカビが発生する原因となることを知っている人は85%以上いるのに対し、自宅で結露を発生させないための対策を実施している人はわずか27.9%



86.5%もの人が結露を放置するとカビが発生する原因となることを知っているにもかかわらず、対策を実施している人はわずか27.9%という結果になりました。

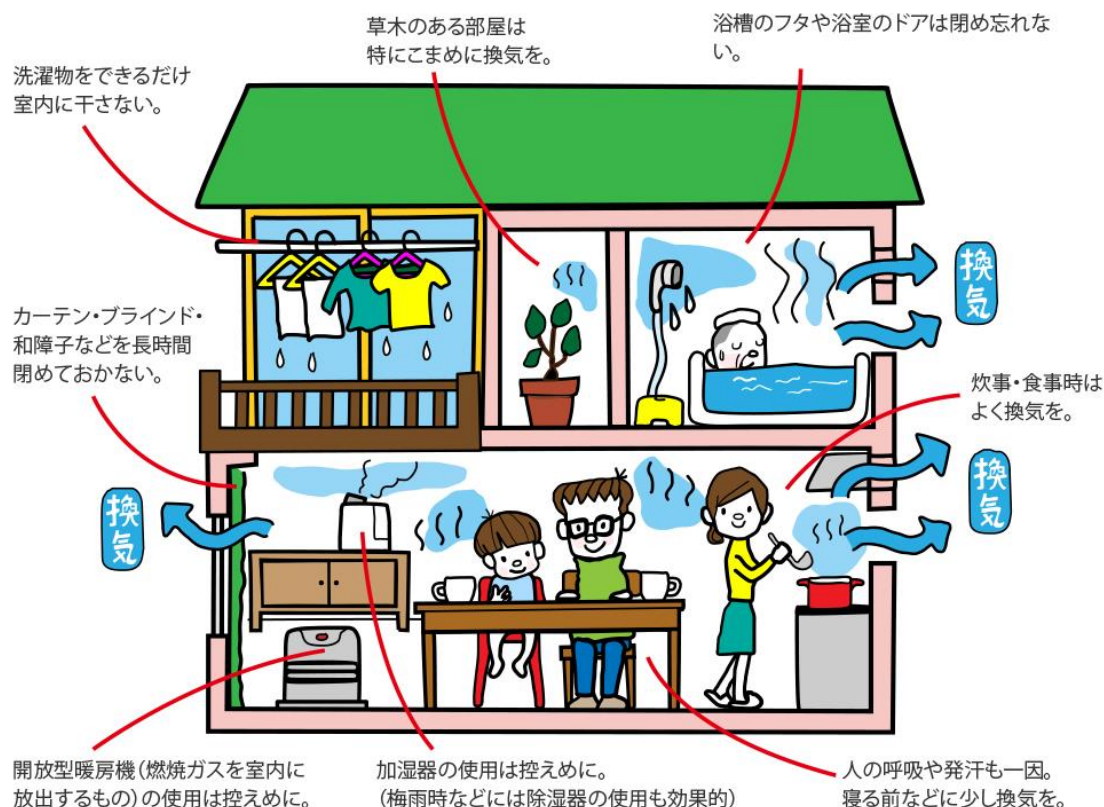
結露は湿気が多かったり、温度が低かったりすると発生しやすくなります。結露が原因で発生するカビはダニや害虫を発生させ、カビの孢子やダニのふんを吸い込むことでぜんそくやアトピーなどの健康被害にも繋がります。

調査結果③：結露対策を実施していない人の理由第1位は「対策を行うのが面倒」だから、「どんな対策があるのかよくわからない」という理由が第2位に



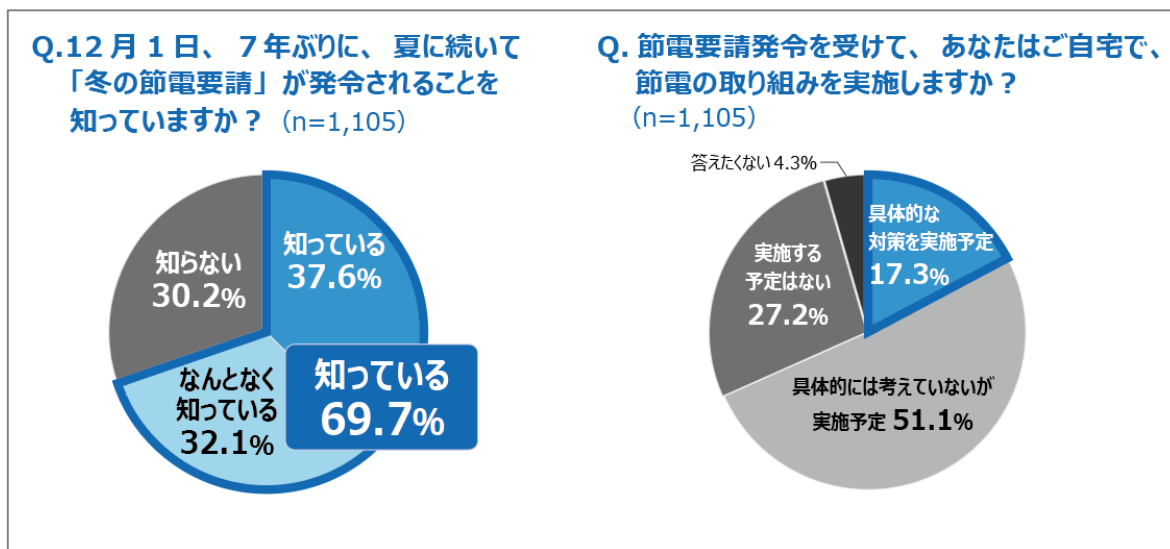
結露を発生させないための対策を実施していない人にその理由を聞いたところ、「対策を行うのが面倒」、「どんな対策があるのかよくわからない」という理由が多いことが分かりました。

結露を抑えるには「十分な換気」と「水蒸気の発生源を減らす生活」が必要です。具体的には調理時や就寝前に換気をしたり、洗濯物の室内干しを控えたりすることなどが重要です。YKK AP では結露が発生する理由や自宅でできる結露対策などの情報も発信しています。窓まわりは結露が発生しやすい場所なので、窓を断熱化することが結露対策の大きなポイントになります。



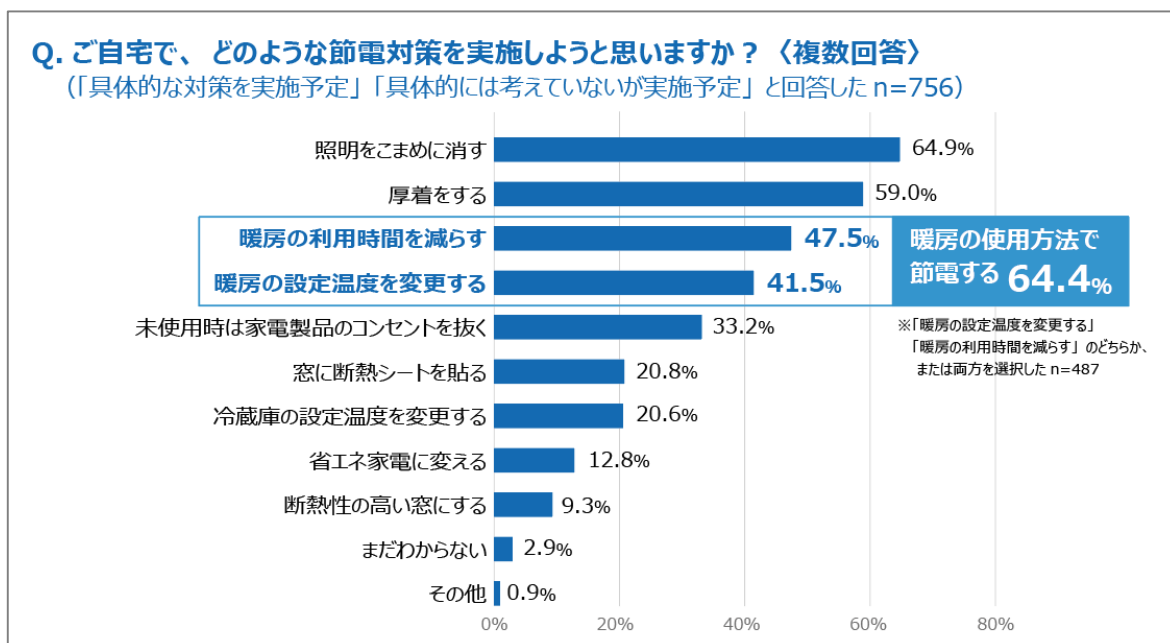
【もう結露になやまない】 <https://www.ykkap.co.jp/consumer/lifestyle/articles/616>

調査結果④：節電要請が発令されることを知っていた人は約 70%いるにも関わらず、具体的な対策を予定している人はわずか 17.3%



69.7%の人が今年の冬、節電要請が発令されることを知っていましたが、実際に具体的な対策を実施しようと考えている人はたったの 17.3%でした。節電要請が発令されることを知り、何かしらの対策を取らなければならないのは分かりつつも、具体策まで考えられていない人が大半だということが分かります。

調査結果⑤：具体的な節電対策を実施予定、もしくは具体策は考えていないが節電対策を実施予定と答えた人のうち半数以上の 64.4%が「暖房」で対策しようとしている



節電要請発令を受けて何らかの対策を実施予定と答えた人のうち、「暖房の設定温度を変更する」「暖房の利用時間を減らす」のどちらか、または両方を実施しようとしている人は合計 487 名で 64.4%となり、多くの人が「暖房の使用方法」で節電を実施しようとしていることが分かりました。資源エネルギー庁によると、冬季の家庭における 1 世帯 1 日あたりの電力消費量(2018 年度)は 14.2kW でそのうち 32.7%が「エアコン」、14.9%が「冷蔵庫」、9.3%が「照明」と、この 3 つで全体の半数以上を占めています。そのため、暖房の使用方法で節電を実施することは比較的效果があると考えられます。

《東京大学大学院准教授 前 真之先生の考察》

調査結果①：『冬に感じる住まいの困りごと、第1位は「暖房使用による電気代の上昇」、続いて「朝起きたときに室内が寒い」「トイレ／浴室・脱衣室／廊下が寒い」という結果に』の考察

皆さん冬の住まいに関してさまざまなことが気になっていることが分かります。暖房費がかさむことも、水回りや朝部屋が寒いことも全て、建物の断熱不足が原因です。日本の家は「熱の勝手な出入りを防ぐ」断熱の性能が不足しているためこのようなことに悩まされてしまうのです。また、断熱が足りない室内の温度をムリに上げようとエアコンが高温の空気を吐き出すので、「室内空気の乾燥」も気になります。

調査結果②：『結露を放置するとカビが発生する原因となることを知っている人は85%以上もいるのに対し、自宅で結露を発生させないための対策を実施している人はわずか27.9%』の考察

水回りにカビが発生することは知られているため、結露もカビの原因になっていることを知っている人が多いことがうかがえます。カビは健康被害にも繋がるので積極的に対策をしてもらいたいです。

調査結果③：『結露対策を実施していない人の理由第1位は「対策を行うのが面倒」だから、「どんな対策があるのかよくわからない」という理由が第2位に』の考察

結露を放置するとカビの原因になることは多くの人が知っているにも関わらず、どう対策したらよいのか悩んでいる様子が見えます。結露の予防には、「室内の水蒸気の発生を減らす」と「水蒸気が結露しないよう室内の表面温度を上げる」ことが有効です。特に、窓枠は表面温度が低くなりがちで、結露が最も発生しやすいウィークポイント。窓枠を、熱を伝えにくい樹脂にすれば、結露防止に大きな効果があります。

調査結果④：『節電要請が発令されることを知っていた人は約70%いるにも関わらず具体的な対策を予定している人はわずか17.3%』の考察

世界中でエネルギーの争奪戦が繰り広げられる中、日本でもこの冬に節電要請が発令されていることは多くの人が知っているようですが、どう対策してよいのか迷っている人が多いようです。暖房の設定温度を下げ使用時間を減らすと、どうしても快適性が損なわれます。暖房を我慢しすぎて室温が下がりすぎ、ヒートショックで健康を損ねては元も子もありません。

調査結果⑤：『具体的な節電対策を実施予定、もしくは具体策は考えていないが節電対策を実施予定と答えた人のうち半数以上の64.4%が「暖房」で対策しようとしている』の考察

厚着や暖房など今すぐのできる対策を取ろうとしている人が多いのが分かりますが、生活での工夫には限界があり、やはり建物自体の断熱性能向上が不可欠で、特に熱が逃げやすい窓のアップグレードが必要です。

《「冬の寒さ」と「暖房費の高さ」を両方解決する方法を前先生が伝授！》

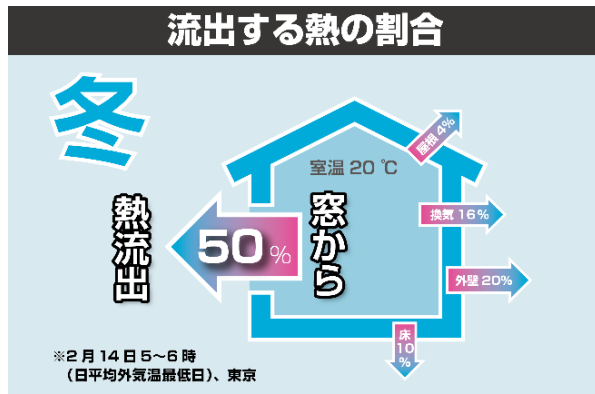
「冬の寒さ」と「暖房費の高さ」を両方一度に解決するには**建物自体の断熱性の向上が不可欠**です。断熱の一番の弱点は「窓」ですが、逆を言えば、**窓を換えることで一気に建物の断熱性は上がります**。窓を換えるというと大変そうに思われるかもしれませんが、既存の窓を残して内側に新しい障子を追加する「内窓」なら、低コストで工事も簡単です。私も自宅に内窓を入れてもらいましたが、採寸半日、施工1日で工事は完了。冬の暖かさと夏の涼しさはもちろん、外の騒音も聞こえなくなり、内窓の効果を実感しています。**窓改修による断熱の効果に注目し、国も大規模な断熱窓改修への補助金も用意しているので、今が窓改修のチャンスです。**

※YKK APより前先生に依頼し、いただいたコメントを編集して掲載しています。

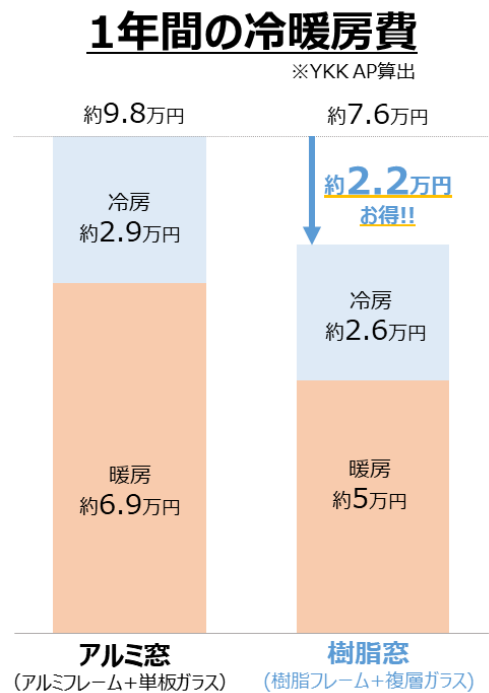
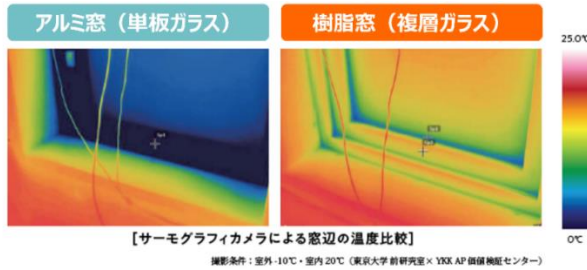
冬に感じる住まいの困りごとは窓を換えることで全て解決！前先生オススメの「樹脂窓」とは？

寒さが厳しくなる冬場は、暖房器具を使ってもなかなか部屋が暖まらないことがあります。冬に感じる住まいの困りごとの上位に「朝起きた時の室内の寒さ」や、「浴室や廊下の寒さ」などがランクインしました。これは熱の「温度の高いところから低いところへ移動していく」という性質によって窓や壁、床などから暖気が外に逃げてしまうことが原因だと言われています。特に家の中から流出する**暖気の約 50%が「窓」から流出**することが分かっています。

そんな窓からの熱の流出を抑えるのが「樹脂窓」です。樹脂窓は、窓のフレームが樹脂でできているため、断熱や遮熱、気密性に優れています。窓の断熱性能を高めると暖気が逃げにくくなるため、室内の温度低下を抑制し、効率よく冷暖房を使用することができます。また、窓を樹脂窓に交換するタイプだと**年間約 22,000 円の節約**になります。**一度取り付けたら、お金のかからないエアコンが「樹脂窓」**です。



アルミ窓(複層ガラス)の場合 ※YKK AP算出



さらに、しっかりと断熱することで外の気温の影響を受けにくくなり保温性が高まり、結露を抑えることもできます。結露を放置するとカビが発生する原因となることを知っているにも関わらず、「対策方法が分からない」と答えた方にもぜひ検討いただきたい結露対策の方法です。



【冬の結露対策は樹脂窓で】 <https://www.ykkap.co.jp/consumer/satellite/sp/healthcare-mado/>